

「同時進行数」 自分史上最高を更新中

皿回しの夢

他の理事者と同様に副会長として多忙な毎日を過ごしている。おびただしい数の決裁と多数の担当委員会への出席、職員との協議で1日1日が飛ぶように過ぎていく。副会長になる前、弁護士として常に数十件の事件を抱え、それらを同時に解決に向けて進めていくということを日常としてきたが、想像を超える担当業務の多さの中で、同時に進めるべき事柄の数は副会長となって早々に自分史上最高記録を突破し、なおも更新していく気配がある。

そのような日々にゆっくりと流れる時間はなく、常に慌ただしくしている。映画「フォレスト・ガンプ 一期一会」（ロバート・ゼメキス監督 1994年公開）で主人公のフォレストが卓球に目覚める場面があるが、フォレストが両手に卓球ラケットを持ち、2つの球を同時に壁打ちするシーンを思い出す。フォレストのように次から次へと球を打ち返せばよいがそうもいかず、処理しなければならない案件が未裁のまま溜まっていく。結果として自分史上最高に多くの「同時進行数」になっているというわけである。

ストレスを感じないと言えば嘘になる。ある日浅い眠りの中で夢を見た。両手でいくつもの皿回し（棒の先端で皿や茶碗を回転させる曲芸ですね）をしている私が、失敗してお皿を落として割ってしまうという夢だった。思い起こせば登録したての新人弁護士の頃にもそんな夢を見たことがあった。一つの事件に取り掛かっていると他の事件の処理を忘れて期限を過ぎてしまうということが何度もあり、先輩から叱られた経験が見させた夢だったが、能力の限界を超えそうになっている今、再度夢に皿回しが登場した。

副会長 大森 顯 (53期)



多摩地区の非常設対面相談の実現

そんな中やり遂げられたこともある。特にうれしかったのは、昨年度東弁多摩支部長として取り組んだ町田・八王子の法律相談センターの非常設対面相談の実現である。弁護士会が賃借する物件で法律相談を行うという発想を捨て、法律相談実施日だけ公的施設を利用して法律相談を実施するという取組みである。今年度に入ってからも副会長として各方面との協議を重ねてきた。八王子に先行して町田がオープンを迎えた10月2日、理事者室を抜け出して町田の商店街の中心にある「ぱっぽ町田」という複合施設に様子を見に行つたが、相談者の方も相談担当弁護士も場所に迷うことなく、また事務フローにも大きな問題は生じず、無事に法律相談が実施されていた。オープンまでの法律相談センター職員や多摩支部職員の並々ならぬ尽力があってのことだが、「箱もの問題」から脱却する画期的な取組みの船出に立ち会うことができ、感無量であった。

この秋、同じく理事者室を抜け出して、高校2年生の息子の高校生活最後のビッグイベントである体育祭を見に行った。家族と過ごす時間が激減している本年度、せめてもの行いとして息子の姿を目に焼き付けようと思った。そうしたら驚いた。息子は白組の「大将」をしていて、中学1年生から高校2年生の白組メンバーを束ね、白組を優勝に導いていた。私が作るお弁当は明らかに手抜きと分かるものになっており、「ただいま」という前に「遅くなってゴメンね！すぐ晩御飯つくる」と言い訳している毎日、高校生活に支障を生じさせているのではないかと冷や冷やしていたのだが、「子育てという皿」に辛うじて必要最低限の回転は与えられていたようである。